

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 7 日現在

機関番号：32675

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K12312

研究課題名（和文）神原文庫所蔵の清末四川説唱本に関する研究

研究課題名（英文）Sichuan changben(Sichuan song books) in the Kambara Collection of Kagawa University Library

研究代表者

岩田 和子 (IWATA, Kazuko)

法政大学・法学部・教授

研究者番号：90581819

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 800,000円

研究成果の概要（和文）：(1)神原文庫所蔵清末四川説唱本の提要作成作業を進めた。(2)現存数が少ないとされる同治年間のテキストの特徴について興順堂刊本を取り上げて分析した。(3)四川や湖南等の内陸部で流行し、更に各種媒体を介して全国的に流布した『滴血珠』を中心に取り上げ、女性たちの訴訟に関する物語がどのような形態とプロセスで人々に受容されていったのか、出版と流通・アダプテーション・故事内容と清代の訴訟制度との関連性・公案物（裁判故事）の流行・宣講の芸能化・実社会における女性たちの訴訟状況等を通して考察し、裁判が社会の一つの制度として民間に定着するプロセスに、説唱本等の文化メディアが大きく寄与したことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国内外に知られていなかった神原文庫所蔵の四川唱本について、稀見資料と考えられる道光・咸豊・同治年間のテキストのうち同治年間の興順堂刊本に対する分析、周辺地域の説唱文芸との関連性、各作品の内容の分析と当時の社会制度との関連性、物語の流布だけでなく社会制度の定着と文化メディアが果たした役割の検討等を通して、それらの資料的価値の一端を明らかにし、従来の説唱文芸研究の成果を深化させたことに本研究の学術的意義がある。

研究成果の概要（英文）：(1) Work was carried out on the preparation of a compendium of Sichuan changben in the Kambara collection.(2) The characteristics of printed books from the Tongzhi period, which are said to be few in number, were analysed using the Xingshuntang editions.(3) Focusing on "Di xue zhu", which was popular in inland areas such as Sichuan and Hunan and circulated nationwide through various media, and examines the forms and processes by which stories about women's lawsuits were accepted by the people, through analysis of publication and distribution, adaptation of the stories, the Qing dynasty lawsuit system, the prevalence of court-case stories, the transformation of Xuanjiang into entertainment, and the situation of women's lawsuits in actual society. As a result, it became clear that cultural media such as changben made a significant contribution to the process by which court proceedings became established as a social institution among the people.

研究分野：中国通俗文芸

キーワード：四川唱本 説唱本 唱本

1. 研究開始当初の背景

背景・動機

日本の大正期に大審院判事をつとめ、香川大学初代学長でもあった神原甚造の旧蔵書からなる香川大学附属図書館神原文庫には四川唱本約三十種が所蔵される。清末から民国期にかけて四川で大量に出版された説唱本全体からみれば、神原文庫に所蔵される数量はごくわずかだが、調査を通じて、神原文庫所蔵の四川説唱本は、中国の国内外の代表的な所蔵機関に所蔵が無いもの、現存数が少ないとされている光緒期以前の道光・咸豊・同治年間の貴重なテキストが含まれていることが明らかとなった。申請者はこれまで、清末から民国期にかけて湖南で隆盛した湖南説唱本について、出版と流通、物語の生成と流布における文化的・社会的背景について考察し、清代説唱文芸史における湖南説唱本の役割を明らかにしてきたが、当該研究から得た知見を基に、新たに神原文庫所蔵の四川説唱本に対する研究をすすめることで、内陸部における説唱文芸活動の様相をより具体的に明らかにすることができるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

神原文庫所蔵の四川唱本作品に対する提要の作成を通して具体的な物語内容や特徴を整理し、そのうえで、ほぼ同時期に四川の周辺地域である湖南、湖北、貴州、雲南等の内陸部でも同様に隆盛した説唱文芸活動とどのような関わりがあったのか、清代以降の説唱文芸史において、四川を含む内陸部の説唱本はどのような役割を果たしたのか、当時の説唱本出版の状況、各種物語の生成、流布、改編に対する整理分析、地域間の相互影響関係、文化的社会的背景等から多角的に検証し、従来の四川説唱本研究の成果を深化させると同時に神原文庫所蔵の四川説唱本の資料的価値を見直す。

3. 研究の方法

神原文庫所蔵の四川唱本各作品に対する提要作成作業を進め、一つ一つ丁寧に解読する。現存数が少ないとされる光緒期以前のテキストを中心に取り上げ、版本整理、内容研究等を行いその特徴を把握する。また、内陸部を中心に流行した物語のほか、内陸部から全国的に流布した物語を取り上げ、それぞれの物語の生成、流布、改編に対する分析、各書肆の出版活動、地域間の相互影響関係、文化的社会的背景等から多角的に検証する。また、対象作品および関連作品の異種版本や、各種媒体で局部的・全国的に流通したテキストを網羅的に収集するため、国内外の所蔵機関に実施調査に赴く。

4. 研究成果

(1) 神原文庫に所蔵される四川説唱本の各作品に対する提要作成作業を進め、その成果を公開した。国内外に所蔵のない稀見資料も含まれているため、今後の説唱本研究に資するところが大きい。

(2) 中国国内外の機関に所蔵される四川説唱本のなかでも特に現存数が少ないとされる道光・咸豊・同治年間のテキストのうち、同治年間に「劉興順」という人物によって「興順堂」という書肆から創作・出版された説唱作品八種と関連作品二種（『五英配』『冰霜鏡』『望月楼』『金珠縁』『雙上墳』『後雙上墳』『仙鶴縁』『定国珠』）を研究対象として取り上げた。一部は神原文庫にのみ現存すると思しい稀見資料と考えられる。各種テキストの書誌調査、版本収集、作品の概要紹介・内容分析を通して成書について考察すると共に、光緒期以前の四川の民間書肆における説唱本創作・出版活動の状況や、周辺地域の通俗文芸との関わりについて検証した。その結果、興順堂から出版された各種作品は、通俗文芸では定番のプロットを軸に量産されたこと、四川を中心に湖南、貴州、雲南等の周辺地域で地方劇や説唱など各種媒体でも流布し、人口に膾炙した物語『滴血珠』『八仙図』『藍橋汲水』等の影響を大きく受け、創作に採り入れていたこと、また独創的な王嬌鸞故事『雙上墳』を編み、四川を中心に新たな流行を築いたこと、そのほか物語本編の前後に興順堂の新作や関連作の宣伝文を挿入し、読者の購買意欲を高める工夫を講じていたこと等が明らかとなった。以上のような書肆による創作・出版の姿勢は、四川だけでなく当時の湖南説唱本においても見られ、内陸地域で共有・形成された出版文化であったことが確認された。

(3) 各作品の中でも様々な媒体を介して全国的に流布した『滴血珠』を中心に取り上げ、物語がどのような形態とプロセスで人々に受容されていったのか、その流布の背景を考察した。説唱本としては四川だけでなく湖南、貴州、雲南等、内陸部を中心に出版・流通し、上海においても石印出版されたほか、地方劇で上演され、郷約における民衆教化活動である宣講の案証としても語られ、宣講書に収録されて広く出版・流通した当該故事は、四川省保寧府巴州の趙秉桂が異母兄に謀殺されたことに端を発し、妻と娘がその無念を晴らすため訴訟を起こす。巴州、保寧府、川北道、按察使、布政使、巡撫と、順を追って上級の裁判機関に訴えるも棄却され、最終的に河南省開封府の包公に四度にわたって（四度目は娘の身の純潔を証明するため）訴えて無念を晴らすという内容で、孝と貞、および小都市から大都市へ何度も女性が訴えに行くことが中心的なテーマとなっている。そこで、『滴血珠』の故事内容と清代の訴訟制度との関連性、当時の公案物（裁判故事）の流行、宣講の芸能化、そのほかの清末四川説唱本『冰霜鏡』『後雙上墳』『風水亭』『陰陽鏡』（神原文庫蔵本）に描かれる「訴えに行く女性たち」の場面分析と当時の実社会における女性たちの訴訟状況を通して考察し、文化メディアと相互浸透して、裁判が社会の一つの制度として民間

に定着していき、清代の好訟社会も形成されて行ったのではないかという可能性を提示した。

以上を通して、神原文庫所蔵の四川唱本の特徴や、内陸部における説唱文芸活動とその役割の一端が明らかとなり、今後継続的かつ発展的に唱本に対する調査分析を行う上で、重要な研究モデルを築くことができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 岩田和子	4. 巻 19
2. 論文標題 神原文庫所蔵清代四川唱本提要（一）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 言語と文化	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩田和子	4. 巻 46
2. 論文標題 神原文庫所蔵清末四川説唱本の興順堂刊本について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中國文學研究	6. 最初と最後の頁 100-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 岩田和子
2. 発表標題 訴えに行く女性たち 清代唱本の一側面
3. 学会等名 シンポジウム「東アジア近世・近代都市空間のなかの女性」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩田和子
2. 発表標題 滴血珠故事流伝考 以清末民初的唱本和宣講書為中心
3. 学会等名 “中日漢籍与文化” 國際學術研討會（國際學會）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------